

アースデイ@瀬戸内

アースデイ@瀬戸内 事務局
〒743-0072
山口県光市室積大町32-16-202
TEL: 090-9063-9603 (松村)
<http://www.earthday-setouchi.net/>
E-Mail: info@earthday-setouchi.net

実行委員長御礼

"海から気付く、みんなで築く"、こんなキャッチフレーズの下、2007年4月21日(土)~22日(日)に山口県光市虹ヶ浜行われた"アースデイ@瀬戸内2007"、お蔭様で大盛況の内に終わることが出来ました。参加された1300人のみなさん、ご来場誠にありがとうございました。当初は3人の熱意のみで始まったこの企画も、みなさんの海や地球に関する想いを汲んでいくうちにあれよあれよという間に大きくなり、ゆったりとした時間が流れるイベントになることができました。

アースデイは地球がテーマのお祭りです。みなさん、一人ひとりが主人公。これからも持続可能なカタチで発信し続けていこうと思いますので、みんなで一緒に地球に対する意識を高めていきましょう。2日間、本当にありがとうございました。

実行委員長 松村文彦

アースデイ@瀬戸内

アースデイ@瀬戸内2007のポスター・チラシの絵とロゴは、山口市在住の風天百笑こと北原慎二さんにご協力いただきました。力強いユニークで楽しい北原さんの絵はとてもインパクトがあり、アースデイ@瀬戸内2007を引き立ててくれました。

ホクレア寄港

ハワイから古代の航海力ヌーを復元したホクレア号の展示がアースデイ@瀬戸内で開催された約1カ月後、ホンモノが日本列島にやってきました。エンジンや現代的な航海機器を一切持たず、星の運行だけでマイクロネシアを経て太平洋を渡ってきたホクレア号は沖縄や長崎を経て瀬戸内に入り、5月20日には祝島へ。島は千年の伝統を持つ神舞のときにだけ使われる権伝馬船で迎え、アースデイのスタッフたちも權を漕ぎ、海上でクルーたちとの感動的な交流を果たしました。地球や海とのつながり、平和への祈りが呼び覚まされた瞬間でした。アースデイ@瀬戸内2007の黒字分の117217円はホクレア号日本寄港へ全額寄付させていただきました。



デポジット

デポジットとは食器類を百円で貸し出し、使い終わったらその百円と引き換えに食器類を返品してもらう制度のことで、今回はプラスチック製のお皿やコップを用意しました。なじみの薄いシステムということもあってか、最初は戸惑っていらっしゃる方も多かったですが、大半の方々が、快く協力して下さいました。紙コップや紙皿、割り箸のゴミを見ることなくイベントを終えることが出来たのは非常に心温まる体験でした。

★デポジット食器協力：山口大学工学部・エコファイターズ 東南さん



地球のお話

田中 優さん講演・・・1957年東京都生まれ。未来バンク事業組合理事長。坂本龍一やスター・リンの桜井和寿が設立したNPO銀行「ap bank」の監事も務める。

2007年2月、気候変動に関する政府間パネルという団体から、このまま温暖化が進めば悪循環が悪循環を呼び、もう人間の力では歯止めができなくなるという恐ろしい事実が発表された。けれども、希望はある。一番大切なのはこの10年でみんなが動きどれたけの事ができるか。問題を解決しようとするなら、原因を追求しその原因に対して対策を考えなきゃならない。

例えば日本の場合、温室効果ガスのもとになる二酸化炭素を大量に出しているのは国民ではなく企業。国はそういった企業に非開示を許してまっているのが現状。

原子力発電も然り。今から建てたととしても人口は今のペースでいけば2090年には人口が半減するけれど、その時には今から原子力発電所を造っても、できた頃には電気が余ってしまう。だから合理的に電力会社の経営を考える人だったら原子力発電所は選択できない。さらに、その間に大量の放射能が排出され、それをプラクトンが取り込み魚がそれを食べ、凝縮されものが人の口に入る。これでは二酸化炭素の排出量は少ないにしても利口な対処方法ではない。社会全体のしくみを変えるにはタテとヨコとナナメの運動が必要。タテは政治的な運動ヨコはムーブメントを起こす方法。ナナメは別なやり方を考えて、現実に新たな仕組みをやってみせる方法。この3つを同じくらいの比率でやらないと社会は動かない。私たちは非力ではあるが無力ではない。微力であれ力を合わせていくことで何かを生み出せる。これからの十年は歴史に類をみない「未来を決めてしまう十年」になる。私たちに必ず大切にしたい人がいる。その人たちの未来のために、やれるだけの事はしておきませんか？

渚の遠足

シーカヤックとラフトボートの体験会を行いました。無料で体験できるということとスタンプラリーの体験しよう！に含まれていたことも大きく要因して、2日間で109名の方を渚の遠足にご案内できました。

初めての乗り物にドキドキのみなさんでしたが、「気持ちよかった〜」「結構かんたんね」「おもしろいね」との声に私たちも楽しい時間を過ごせました。中でも印象に残っているのは、2日目の雨の中、ひかりけんじの学校の子もたちが、「雨にも負けず・・・」の言葉どおりの元気よさで、シーカヤックとラフトボートを楽しんでくれました。濡れることを楽しむ子どもたちの姿に、自然を満喫するってこういうことだなあと感じさせてもらいました。また、海でお会いしましょう！



風のステージ

高さ約6mの大きなネイティブ・アメリカンのティピテントを舞台に15組が歌い踊った"風のステージ"。美祿のアーティスト、源の助さんのプロデュース、ヤスベエこと大谷泰彦さんの司会で沖縄民謡、アンデス音楽、フォーク、レゲエ、ハワイアンフラ、子どもたちによる詩の朗読などなど、ジャンルは違えど美しい地球への願いは一つ！たのしい演奏が繰り広げられました。

二日目も降りしきる雨のなか盛り上がり、ラストは魂のシンガー、内田ボブさんが登場。いきなり伝説の「おお、チェルノブイリ」で会場も大興奮！歌声が空に届いたのが、フィナーレには雨が上がっていました。

